

《1月の番組ガイド》

鳥取市行政番組

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土
鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介しします。

【話題・特集】

- ▷鳥取市成人式
- ▷消防出初式
- ▷鳥取市若者議会 など



「昨年消防出初式」

静止画文字情報 『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週水・木・金・土

鳥取市からのお知らせ イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばぴよんぴよんネット 自主制作番組

『2014年新春特別編成』【放送】1月1日～4日

鳥取市長と鳥取商工会議所会頭の新春対談をはじめ、県内のケーブルテレビ局共同制作番組「グルメ戦隊食のみやこレンジャー」、鳥取市児童文化祭や鳥取市公民館まつりなど特別編成でお送りします。

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

J A鳥取いなばの今年の取り組みや果樹のせん定作業など農業情報をお送りします。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

市内各地の元気な団体を紹介する「テレビで年賀状」や成人式、各地の公民館行事などを紹介しします。

生活情報番組『ぴよんぴよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けしします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介しします。

122ch (第2放送)

週替わりでリクエスト番組やイベント番組を再放送。また、テレビでしゃんしゃん体操を毎日放送中!

番組の放送時間や内容はホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください

情報をお寄せください!

いなばぴよんぴよんネット ☎0857-22-6111
※放送予定は予告なく変更することがあります。
番組の放送時間は、ホームページでも紹介しています。
<http://www.inabapyonpyon.net>



新井満氏作曲の祝い歌を鑑賞する吉事の会のみなさん

行事のため、大雪が降ると客足が伸び悩む。また、行事を運営するメンバーが集まりにくい年もあった。それでも、「この歴史館を盛り上げたい」という強い気持ちが井上さんを支えた。

「何事も、続けていくには努力が要ります。みんなでもう少し、もう少しと、これまで続けてこられました」と語る井上さん。「お客さんからの「おいしかった」の一言に、元気をもらっています」と、その表情は晴れやかだ。「会を通して、特にご婦人

の友だちが増えました。若返った気持ちになります」と中林さんは言う。歌への愛情、そして、長年をかけて結んだ仲間とのつながりが、中林さんに力を与える。80歳を超えてもなお、元気は衰えない。

20年の節目に向かって

長年続くこの取り組みに、さらに明るいニュースが舞い込んだ。芥川賞作家で『千の風になつて』の訳詩・作曲で有名な新井満氏が、大伴家持の歌に曲をつけたのだ。中林さんは「20回を迎える年にこの

曲が流れるのは最高」と、『祝い歌』の完成を喜ぶ。次の大茶会では、みんなで歌を披露しよう、メンバーが集まって練習を始めている。「ゆっくりで歌いやすいです。音程に幅があるので練習しないう」と井上さんも、前向きに取り組む。

「今年も良いことが重なりますようにと、1200年以前も前に詠まれたこの歌の響きが、現在にも伝わっている。非常に感銘を受けています」と、中林さんは歌の魅力を訴える。「この歌を大切にしてい

ほしい。世代が変わっても取り組むを続けてほしい」。それが、中林さんの願いだ。

今年の万葉大茶会は、1月26日(日)の午後1時から。万葉衣装をまとった会員たち、歌が書かれた茶碗に懐紙、会場の雰囲気を作り出す琴の演奏など、吉事の会のみなさんは、おもてなしの準備を進めている。万葉の歴史が薫る国府町で、歌人の気持ちに思いを馳せる。そして、新年の吉事を願う。そんなひとときを多くの人に過ごしていただきたい。



「新しき」の歌が書かれた茶碗

1250年余り前の正月に、因幡国国府で詠んだ歌。万葉集の最後を飾る歌として知られている。

因幡万葉歴史館では、平成6年の開館以降、毎年旧正月の時期に『因幡万葉大茶会』を開いている。これは、家持の歌と、家持がお茶会を開いたことにちなんで行われているものだ。家持の歌が書かれたお茶碗で抹茶を味わい、新年の訪れを祝う。開催回数は19

回を数え、多い年では町内外からおよそ150人が訪れる。茶会の運営は、地元のボランティアグループが行っている。それが『吉事の会』のみなさんだ。現在のメンバーは、国府町に住むお茶をたしなむのが好きな12人。会の設立以前は、公民館活動などでお茶を習っていた人たちが多く。代表の中林国臣さんは、「作法は気にせず、お茶を楽しく飲んでもらうことをモットーにしています」と話す。

吉事の会の設立は、因幡万葉歴史館の建設当時に遡る。「国府町は万葉集発祥の地。また、天皇に仕えた徳足比売

が眠る地である。万葉歴史館は、その歴史をきちんと伝える施設」と、中林さんは捉えている。歴史館の集客を手伝い、多くの人たちに国府町の歴史に触れてほしい。そんな思いが中林さんを動かした。

「美味しい」が継続の力

中林さんは、歴史館のいいPRになると、旧正月の茶会を企画。仲間集めや集客のためのアイデア出しなど、精力的に活動した。中でも、歌が書かれたお茶碗が一番のこだわり。「日本国中で国府町にしかない茶碗で味わうのが一番」と、中林さんは地元の陶

芸グループに特注で制作を依頼した。その数およそ50点。「好評です。お客さんの中には、1000年前の情景に思いを馳せていただいた人もいました」と、中林さんはうれしそうに話す。

井上好子さんは、結成当時から毎年茶会に携わるメンバーの一人。茶会では、万葉衣装に身を包み、お茶を振る舞っている。「普段はあんなきれいな衣装をきれいなでしよう。すごくウキウキして、若返った気持ちになります」と笑顔で話す。

しかし、決して楽しいことばかりではない。年に一度の

シリーズ **元気です** 142

仲間と力を合わせ 万葉のふる里PR

よごと **吉事の会**



子どもからお年寄りまで茶会を楽しむ



万葉衣装で抹茶を立てる木下さん